

≪物部川地域≫

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>1. 南国市の園芸主幹品目の振興</p> <p>《南国市》</p> <p>コスト上昇分をいかにカバーして、農家の維持、農業所得の向上や産地維持を図っていくか、南国市地域園芸戦略推進会議を核として、品目毎の生産・流通・販売上の課題解決に取り組む。</p>	<p><生産上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 各関係機関の連携強化（H21～23実績） →営農改善会活動の支援：総会・定例会（月1回）・各分会（随時）の開催支援 ・3JA（南国市・長岡・十市）合同の取組み支援（H21～23実績） →生産者大会、現地検討会など →腐敗果防止対策（全品目対象啓発巡回1～2回/年、オクラ収穫容器洗浄など） ・補助事業の活用 （H21）環境保全型農業推進事業費補助金 6,983千円、レンタルハウス整備事業（4件）29,081千円 （H22）環境保全型農業推進事業費補助金10,585千円、レンタルハウス整備事業（4件）39,172千円 （H23）環境保全型農業推進事業費補助金12,264千円、レンタルハウス整備事業（5件）44,483千円 <p><流通・販売上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3JA合同の取組み（H21～23実績） →シシトウ：消費宣伝活動、出荷予測システムの構築 ・補助事業の活用 （H21）こうち農業確立支援事業費補助金（全自動製函機1台・全自動梱包機3台〔JA南国市〕4,651千円、全自動製函機1台〔JA長岡〕3,203千円、半自動製函機3台〔JA十市〕945千円） （H22）こうち農業確立支援事業費補助金（ピーマン印字機〔JA南国市〕4,673千円（4台）〔JA長岡〕1,365千円（1台）、ニラ印字機パーシャル化込み〔JA南国市〕1,334千円（1台）、シシトウ等製函機〔JA南国市〕451千円（2台） （H23）こうち農業確立支援事業費補助金（濃縮果樹飲料製造設備〔JA十市〕819千円（1式） 	<p><生産上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オクラは腐敗果防止対策によりH20年8件から21年1件、22年7件、23年6件となった。 ・重油消費を節減可能なヒートポンプが1戸、木質ペレットボイラーが11戸、省エネ温水暖房機が12戸で導入された。 ・補助事業の活用により防虫ネットや天敵等を導入し、環境保全型農業を推進した（H21:566a/38戸、H22:1,196a/77戸、H23:1,786a/124戸） <p><流通・販売上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3JAの組織代表（農家・部会役員）が合同で大消費地の消費動向調査（消費宣伝）を行い、産地PR・市場関係者との関係構築・産地維持に向けた意識醸成が図られた。 ・農業生産体制強化緊急整備事業を利用して、3JA出荷場へテープ使用製函機、エコテープ利用の梱包機を導入し、流通環境を改善した。 	<p>シシトウ販売額 (H19 13.4億円) 13.4億円</p> <p>ニラ販売額 (H19 3.9億円) 4.0億円</p> <p>オクラ販売額 (H19 1.8億円) 1.8億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>	<p>10.4億円</p> <p>4.6億円</p> <p>1.2億円</p> <p>(H23園芸年度販売額)</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・シシトウは高齢化などもあり、H19園芸年度の農家戸数130戸、栽培面積18.3haからH23園芸年度は106戸、16.0haと減少した。また重油価格も上昇傾向で、省エネの取り組みが急務となっている。</p> <p>・ただ、3JA合同の生産者大会や現地検討会、販売促進活動などJA間を超えた取り組みが進んでおり、産地のまとまりはできつつある。</p> <p>・ニラは、農家戸数が37→41戸とやや増、栽培面積は15→14.7haと微減ながらも、出荷量は902→947tと増加傾向である。これは高温期に生産が安定する品種の導入などが要因と考えられる。</p> <p>・オクラについては、農家戸数は109→120戸、栽培面積は7.8→8.2haと微増したが、露地品目ゆえ生産が不安定なことから出荷量及び販売額が大きく落ち込んだ。また高齢者の新規栽培者が多い品目であることも生産が不安定な要因と思われるが、腐敗果実を出さない取り組みが浸透してきており、産地評価も上がってきている。</p> <p>(以上、数値はH19→H23園芸年度の推移)</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シシトウは省エネ対策による経費削減 ○安全安心の取り組み ○産地の維持拡大 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○省エネ技術の導入 ○環境保全型技術の取り組み促進 ○生産安定技術の普及促進 ○販売対策の強化 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>2. 香南市・香美市の基幹園芸品目の販売力向上対策</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>香美市・香南市には、エメラルドメロンや山北ミカン、やっこネギなど高知県を代表するような園芸品目がある。こうした品目について、生産体制の強化とあわせて、ブランド化を含めた新たな販売戦略を構築し、県内外の市場における知名度と販売力の向上を図る。</p>	<p>〈エメラルドメロンのブランド化〉</p> <p>○日射比例かん水制御システム導入(H21~23年度) 12戸、22台、506a</p> <p>○販売促進活動(H21~23年度) 商談会開催6回、海外での食品フェアへの参加1回</p> <p>○産業振興推進総合補助金 H21年度9,511千円 H22年度7,429千円 H23年度8,595千円</p> <p>〈エメラルドメロン以外の品目のブランド化〉</p> <p>○フルーツマト H22年度実績 ・パッケージデザイン、名称等についてトマト部会で検討 H23年度実績 ・規格で異なっていたパッケージデザインの統一</p> <p>○ミカン ・高糖度露地みかんの栽培推進</p>	<p>〈エメラルドメロンのブランド化〉</p> <p>○日射比例かん水制御システム導入</p> <p>・可販果率の向上 H20：70.1%→H21：76.8% → H22：75%→H23：74.9%</p> <p>・品質の向上（外観・内容）</p> <p>・かん水作業の省力化</p> <p>○販売促進活動</p> <p>・日本フルーツアートクリエイター協会とタイアップし、「見せて・食べさせて・売る」販促活動実施</p> <p>〈エメラルドメロン以外の品目のブランド化〉</p> <p>○フルーツマト ・生産農家の収益向上策の検討開始（パッケージデザイン統一による出荷に係るコスト削減等）</p> <p>○ミカン ・露地マルチみかん「夢みかん」販売 H22・12月：出荷量10.4t、479円/kg H23・12月：出荷量18.7t、467円/kg</p>	<p>エメラルドメロン販売額 (H19 4.8億円) 5.0億円</p> <p>フルーツマト販売額 (H19 2.5億円) 2.7億円</p> <p>ネギ類販売額 (H19 17.1億円) 18億円</p> <p>ミカン販売額 (H19 23.1億円) 24億円</p>	<p>4.4億円</p> <p>2.6億円</p> <p>14.7億円 (H23園芸年度販売額)</p> <p>13.8億円 (H23年度販売額)</p>
<p>3. 香南市・香美市の基幹園芸品目の産地力強化</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>J A土佐香美管内の園芸品目は、県下最大の産地であるニラの他、ピーマン、大葉、キュウリなど様々な品目が産地を形成している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るためには、それぞれの品目で産地ぐるみでまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに選果場の機能強化など、産地力の向上に向けた取り組みを総合的に進める。また、食の安全・安心への取り組みとあわせて、「人と環境に優しい園芸産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。</p>	<p>〈トレスビリティシステムの構築〉</p> <p>・オオハ生産者番号印字機整備：農業生産体制強化緊急整備事業補助金3,466千円(H21年度) 〈環境保全型農業の推進〉</p> <p>○環境保全型農業技術の導入</p> <p>・環境保全型農業推進事業補助金 H21年度：1,482千円(ピーマン、パプリカ、メロン、スイカ) H22年度：2,725千円(メロン、キュウリ、ピーマン、シシトウ) H23年：2,842千円(ピーマン、パプリカ、シシトウ、キュウリ、トマト、ナス)</p> <p>〈新技術等の導入〉</p> <p>○高品質果実安定生産技術の導入</p> <p>・温州ミカン：補助金 H22年度：662千円 H23年度：646千円</p> <p>○レンタルハウス整備</p> <p>・レンタルハウス整備事業補助金 H21年度：60,804千円 H22年度：70,298千円 H23年度：77,985千円</p> <p>○選果機導入</p> <p>・ナス選果場整備：こうち農業確立総合支援事業補助金20,000千円(H21年度)</p> <p>・ピーマン選果機整備：こうち農業確立支援事業補助金県・市補助金7,966千円(H22年度)</p>	<p>〈トレスビリティシステムの構築〉</p> <p>・「食の安全安心」の確保 〈環境保全型農業の推進〉</p> <p>○環境保全型農業技術の導入</p> <p>H21年度</p> <p>・ピーマン、パプリカ天敵、病中ネットフェロモン剤、硫黄くん煙機導入受益面積219a</p> <p>・メロン、スイカ防虫ネット、青色蛍光灯導入受益面積345a</p> <p>H22年度</p> <p>・メロン防虫ネット導入受益面積278a</p> <p>・メロン・キュウリ防虫ネット、青色蛍光灯導入受益面積176a</p> <p>・ピーマン・パプリカ・シシトウ天敵、フェロモン、こなでん導入受益面積576a</p> <p>H23年度</p> <p>・ピーマン、パプリカ、シシトウ：天敵、フェロモン剤導入受益面積668a</p> <p>・キュウリ：防虫ネット、天敵導入受益面積263a</p> <p>・トマト：微生物農薬導入受益面積336a</p> <p>・ナス：天敵、微生物農薬導入受益面積401a</p> <p>〈新技術等の導入〉</p> <p>○高品質果実安定生産技術の導入</p> <p>・温州ミカン品質向上農家数、面積 H22年度：10戸161a H23年度：6戸194a</p> <p>○レンタルハウス整備 H21年度：7件148a H22年度：12件214a H23年度：11件218a</p> <p>○選果機等導入</p> <p>・品質向上</p> <p>・腐敗事故の予防</p>	<p>ニラ販売額 (H19 22.9億円) 28.0億円</p> <p>ナス類販売額 (H19 2.7億円) 2.8億円</p> <p>ピーマン販売額 (H19 2.3億円) 2.0億円</p> <p>トルコギキョウ販売額 (H19 1.7億円) 2.0億円</p>	<p>28.4億円</p> <p>2.8億円</p> <p>1.8億円</p> <p>1.1億円 (H23園芸年度販売額)</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・目標値を設定したすべての品目において目標値は達成していないが、エメラルドメロンについては、日射比例かん水制御システムの導入により、生産農家のかん水作業の省力化が図られるとともに、品質が向上し、可販果率が向上した。また、関東地区での百貨店等における試食宣伝やハイヤーの産地招聘など継続した販売促進活動が知名度を向上させはじめている。</p> <p>・エメラルドメロン以外の品目については、「山北みかん」や「夜須のフルーツマト」など、既にブランドが確立されている品目も多く、ブランド化後の販売戦略の構築に取り組んでいる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エメラルドメロン <ul style="list-style-type: none"> ・関東地区への出荷量拡大 ・新規市場の拡大 ○エメラルドメロン以外の品目 <ul style="list-style-type: none"> ・生産量や販売額の減少 ・生産農家の収益低迷 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エメラルドメロン <ul style="list-style-type: none"> ・生産量の拡大 ・消費地ニーズに合わせた生産・出荷体制の構築（重量/玉、入り数/箱など） ・取引先確保のための県内外各卸売市場への安定供給 ・生産者による販売促進活動 ・環境保全型農業技術の導入など生産面での取り組みのPR ○エメラルドメロン以外の品目 <ul style="list-style-type: none"> ・生産者による販売促進活動 ・生産や流通コストの削減 ・環境保全型農業技術の導入など生産面での取り組みのPR 	
<p>・ピーマンを除く品目では目標値を達成できていないが、「ニラ」をはじめ、ヤッコネギ、アオネギ、オオバ、ピーマン等生産者番号を印字して出荷する品目が5品目となり、JAとさかみの「食の安全安心」の取り組みを消費者にアピールできている。</p> <p>・また、レンタルハウス整備事業を活用して新たに580aのハウスを整備し、防虫ネットや天敵の導入等を進める環境保全型農業推進事業の受益面積は延べ32.6haとなっている。そのほか、省エネ技術の導入にも取り組んでおり、「環境保全型農業」が着実に浸透してきている。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消費者及び流通関係者に対する「食の安全安心」の確保 ○腐敗、異物混入など事故の予防（撲滅） ○産地の維持拡大 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トレサビリティシステムの構築と推進 ○こうち型GAPの推進 ○環境保全型農業技術の導入促進 ○省エネ技術の導入促進 ○上記の取り組みの販売戦略への活用 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>4. 地産地消・食育の推進</p> <p>《南国市》</p> <p>これまで先進的な活動を行ってきたが、野菜の供給割合は5.5%に留まっており、地産地消のさらなる推進のため、組織の連携強化等を図っていく。</p>	<p>◆ふるさと雇用再生基金事業による食材配送員の雇用 H21：1名 2,387千円 H22：2名 4,791千円 H23：2名 5,453千円</p> <p>◆過年度の学校給食献立の食材及び使用量等の分析</p> <p>◆外食事業者等へのニーズ把握調査実施</p>	<p>◆学校給食への定期的な配送の実現（H21.11月段階で全校配送を実現）</p> <p>◆学校給食における地元野菜の供給割合 H21：7.7% H22：10.9% H23：14.3%</p> <p>◆配送システムによる業務筋への地元野菜の供給実績 8事業体</p>	<p>学校給食における地元野菜の供給割合 (H19年度金額ベース 5.5%) 11%</p> <p>業務筋への供給 (H21新規) 8事業体</p>	<p>14.3%</p> <p>8事業体</p>
<p>5. 生産者と消費者をつなぐ場づくり ～まずは農家レストラン～</p> <p>《南国市》</p> <p>地産地消、安全安心への関心の高まりを背景に、地域の豊富な食材を活かし、生産者と消費者をつなぐ仕組みとして「農家レストラン」を立ち上げ、農業、商工業、観光の活性化を図る。</p>	<p>◆農家レストラン検討会等開催（H21,H22:10回,H23:12回）</p> <p>◆倉庫、冷蔵庫等の整備（H22）市単独事業 3,590千円</p> <p>◆産業振興アドバイザー招へい5回（H22）</p>	<p>◆「農家レストランまほろば畑」を道の駅南国風良里のレストラン定休日（火曜日）にオープン（H22年10月）</p> <p>◆隣接直販店「風の市」の売り上げ前年同曜日対比 122%（オープンからの1年間と前年同期を比較）</p> <p>◆来店者数平均 H22:182人、H23:188人</p> <p>◆開店日数 H22:20日、H23:42日</p> <p>◆アンケート回収率 H22:28.7%、H23:36.6%</p> <p>◆H23.4月から道の駅の火曜日営業開始 ※H23の数値は全て6月末時点</p>	<p>（南国市版）農家レストランの立ち上げ 1か所</p> <p>隣接直販店の売上額 5%アップ（H20年度比）</p>	<p>1か所</p> <p>22%アップ</p>
<p>6. 地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～</p> <p>《南国市》</p> <p>農商工の連携を強化するとともに、農産物の新たな生産・地域内への供給体制を整備し、加工を通じた特産品づくりを促進する。</p>	<p>◆ふるさと雇用再生特別事業（H21～H23）による企画コーディネーター設置 H21：7,608千円 H22:10,677千円 H23:10,933千円 計29,218千円</p> <p>◆地域雇用創造実現事業による農業生産法人の試験的運営</p> <p>◆空港テナント「空の駅」実証の継続（H22～H23：市単補助） H22 11,535千円 H23 9,998千円 計21,533千円</p> <p>◆食1グランプリの開催（H22：岡豊山さくらまつり内、H23：長宗我部フェスと同時開催）</p> <p>◆南国市物部川カワソウの実現事業補助金（市単：率1/2）の交付 西島園芸団地500千円（H22）</p>	<p>◆企画コーディネーター及び空の駅推進協議会によるコーディネートでフラッシュアップまたは新規に商品開発され、市販を開始した商品数：32品目</p> <p>◆高知農業高校アンテナショップの立ち上げ（H22.6月～）</p> <p>◆JA南国市設立農業生産法人「株式会社南国スタイル」の設立（H24.4.2）</p> <p>◆農業生産法人実証組織（実現事業）の農産物（無料）提供団体数累計：17事業体及び学校給食</p>	<p>地域製品を使用した加工食品の商品化（H21新規） 20品目</p> <p>コーディネート機能を通じての流通開始事例（H21新規） 10品目</p> <p>アンテナショップの立ち上げ 1件</p> <p>JA出資型農業生産法人の設立 1法人</p> <p>生産法人の中食・外食産業等への食材供給（H21新規） 8事業体及び学校給食</p>	<p>32品目</p> <p>16品目</p> <p>1件</p> <p>1法人</p> <p>17事業体及び学校給食</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・市内小学校への給食用食材の配送システムが整ったことにより、地元野菜の供給割合が着実に増加し、学校給食における地元野菜の供給割合は目標を達成した。また、業務筋への供給実績も上がり地産地消の取り組みが進んだ。</p>	<p>【課題】 ○南国スタイル（JA出資型農業生産法人）の業務充実を図る必要がある。</p> <p>【方向性】 ○学校給食への地産地消野菜の供給量の向上 ○外食産業・病院・介護施設等の新規販路開拓 ○露地野菜の栽培など実証事業の実施による直販所の活性化</p>	
<p>・道の駅南国風良里のレストラン定休日(火曜日)に「農家レストランまほろば畑」をオープンした（H22年10月）。 ・農家の女性グループらで組織する5つのグループが輪番で運営していくスタイルが定着し、それぞれのグループが特色を打ち出して、平均来店者数約180人と高い集客を維持している。隣接直販店の売り上げ額も目標を超えて増加し、アクションプランのねらいであった生産者と消費者をつなぐ場としての機能を果たしている。 ・一次加工技術や仕入れ先調査による食材の統一ルートを検討し、さらなる地産地消に繋がった。</p>	<p>【課題】 ○「農家レストランまほろば畑」の顧客・スタッフ満足度の向上を図る必要がある。</p> <p>【方向性】 ○業務時間の短縮、スタッフの疲労度の軽減、省力化を図る調理器具の工夫 ○新たな顧客開拓のための調理技術の向上、メニューの開発 ○入店方法の変更による顧客満足度の向上</p>	
<p>・地域産品を使用した加工品の商品化については、数値目標を大幅に上回る実績を上げることができた。 ・農業生産法人実証組織（実現事業）が生産した農産物の外食産業への食材供給も目標を達成している。</p>	<p>【課題】 ○特産品づくりのプレーヤーの育成</p> <p>【方向性】 ○H24.7月に特産品開発のための市単独補助金の創設し支援チームの結成の後、事業者への周知、勧誘を進める方針。</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>7. 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み</p> <p>《南国市》</p> <p>・大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先聖の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「来」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>・また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田を活用した養鶏や飼料米栽培、さらには葉物野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、主に中山間地域での新たな農業手法を検討する。</p> <p>・流通の少ないシャモ肉は少数生産であっても高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外資戦略を展開していく。</p>	<p>◆ごめんシャモ研究会の設立 (H21年7月)</p> <p>◆南国市内の農家 (H23年度現在: 4戸) でシャモ飼育 H21: 70羽 → H22: 890羽 → H23: 1,667羽</p> <p>◆南国市物部川アソビラボン実現事業補助金 (市単: 率1/2) の交付 500千円 (H22)</p> <p>◆ふるさと雇用再生特別事業による「シャモを突破口とした中心市街地賑わい創出推進員」の雇用 (H22~H23) H22: 2,928千円 H23: 5,329千円 計8,257千円</p> <p>◆ごめんシャモ研究会に飼育生産と広報販売の部門担当者を設置 (H23)</p> <p>◆ごめんシャモ研究会の事業推進会議 (定例会) の頻度を月1回⇒毎週に変更 (H23)</p> <p>◆南国市飼育補助金 (市単: 率1/2) の交付 1,000千円 (H23)</p>	<p>◆「ごめんシャモ鍋社中」加盟店舗数 11店舗</p> <p>◆シャモ肉販売 H21: 140kg→H22: 1693kg →H23: 2030kg</p>	<p>「ごめんシャモ鍋社中」加盟店舗数 (南国市でのシャモ鍋提供店舗数) 10店舗</p> <p>社中でのシャモ鍋以外のオリジナルメニュー提供数 1品/1店舗以上</p> <p>シャモ目標飼育羽数 (H21 70羽) 2,000羽</p>	<p>15店舗</p> <p>1品/1店舗以上</p> <p>1,667羽</p>
<p>8. 大学生による地域応援団 (サポーター) づくり</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>地域内に大学が立地することから、在学中に地域資源 (農産品・地場産品) に親しみ、地域の良さを学んでもらい、卒業後も“第二の故郷”として全国各地から物部川地域をサポートする『地域応援団 (サポーター)』になってもらえる仕組みをつくる。</p>	<p>〈在学中の関わりづくり〉</p> <p>○高知工科大学</p> <p>・地域共生概論 (2単位)</p> <p>○「いなかインターンシップ」との連携</p> <p>・NPO「人と地域の研究所」との事業連携</p>	<p>〈在学中の関わりづくり〉</p> <p>○高知工科大学</p> <p>・地域共生概論受講学生数240名 (H21・H22年度各120名)</p> <p>・地域共生概論 (フィールドワーク) 参加学生数9名 (H23年度)</p> <p>○いなかインターンシップとの連携</p> <p>・NPO「人と地域の研究所」が「ふるさとインターンシップ事業」を受託</p> <p>・ふるさとインターンシップを香美市で実施 4回実施、受入学生数17名 (H22・H23年度)</p>	<p>支援組織数 1組織</p>	<p>1組織</p>
<p>9. 農産物加工等への取組計画</p> <p>《香南市》</p> <p>ミカン等柑橘類、ニラ、芋、チャマメ、ショウガ、はなゆ、ブルーベリー、ナス、どろめなど、地域特産の農産物等の加工を通じて付加価値を高め、地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p>	<p>〈商品開発〉</p> <p>○1次産物の活用ができる人材育成</p> <p>・研修6回、参加人員延べ87名</p> <p>○原材料調達システムの構築</p> <p>○商品検討体制の整備</p> <p>・香南まるごと旨市検討委員会による検討</p> <p>〈商品販売〉</p> <p>○販売体制の整備</p> <p>・「土佐香南まるごと旨市」カタログ発行</p> <p>・カタログ試食会の開催</p> <p>・ネット販売開始</p> <p>◆高知県ふるさと雇用再生特別基金事業による「市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援事業」の実施 (3名雇用) H22年度: 11,844千円 H23年度: 14,849千円 合計: 26,693千円</p>	<p>〈商品開発〉</p> <p>○試作品11品 (H24年3月末現在)</p> <p>○商品化10品 (H24年3月末現在)</p> <p>〈商品販売〉</p> <p>○カタログ、ネットでの販売</p> <p>・カタログ販売額 H22年度: 107万円 H23年度: 377万円 (中元・歳暮)</p> <p>・うちネット販売額 H23年度: 27万円 (中元・歳暮)</p>	<p>開発加工製品サンプル数 (H19 -) 10品目</p> <p>商品化製品数 (H19 -) 10品目</p>	<p>11品目</p> <p>10品目</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・地域内にある資源（歴史＋野菜）を上手に融合させて「シャモ鍋」を誕生させ、南国市内の「ごめんシャモ鍋社中」加盟店舗で提供することにより、「地産『菜』消」の交流人口拡大が図られており、数値目標も達成している。</p> <p>・H23年度からシャモ肉のブランド化や地産外商に向けた取り組みを順次開始しており、飼育規模拡大のベースを意識した事業の運営に努め。ごめんシャモ研究会が発足時に掲げた「南国市を元気にしたい。子供たちに誇れるまちにしたい」という思いの実現に向かって懸命に活動している。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シャモ飼育マニュアルの策定 ○生産指導体制の強化 ○加工品の開発 ○生産部門の強化・規模拡大 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域AP実行支援チームや高知農業高校の協力を得て飼育マニュアルを策定し、飼育環境のトレーサビリティの確立を図る（H23年度中に骨子を固める）。 ○飼育マニュアルに基づき徹底した飼育指導を行える体制を強化する。 ○県産業振興推進総合支援事業（ステップアップ事業）の活用等により加工品（シャモ鍋セット）をH23年度中に開発し、地産外商を行う体制を整える。 ○生産農家と良好な関係を維持増強していく。 <p>飼育羽数H22：2,000羽→H25：2,500羽拡大を目標とする。</p>	
<p>・従来から開催されてきた地元住民との交流会が契機となり、高知工科大学において地域共生概論が履修科目として開設されたことにより、地域との関わりづくりが強力に推進されており、科目履修以外でも自発的に地域のイベントに参加する動きもある。また、ふるさとインターンシップ事業において、インターンシップを再度希望する学生や既参加学生の勧誘による参加者もあり、地域との関わりは参加学生にとっても意義あるものとなっていると考えられ、参加学生と受け入れ側の交流は継続するものと思われる。今後は南国市や香南市においても交流機会を増やし、地域と学生が相互に理解を深めていくことで流域全体の取り組みとなることが期待できる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在学中の関わりづくり ○卒業後の「地域との関わり」 ○南国市及び香南市における学生の受け入れ体制の確立 ○地域の産業との連携 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いなかインターンシップとの連携 ○地域応援団の組織化 ○体験型観光の取り組みとの連携 ○体験型観光の受け入れ等、地域の産業との連携を視野に入れたインターンシップの活用 	
<p>・目標値は達成できている。JAと連携して原材料調達システムを構築し、生産量日本一の二ヲを使用した「にらプロジェクト」を展開、新たな加工商品を開発し認知度の向上に努めている。さらに、香南市内の事業者の商品をカタログやネットで販売することにより、事業者の商品開発やメニュー開発意欲を喚起している。また、中元カタログ販売に際し開催した試食会や地元ケーブルTVでのPRなど、事業者自身が販売促進活動を行い、積極的に商品販売にも取り組んでいる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業者の商品開発意欲の継続 ○商品販売体制の継続 ○自立運営体制の構築 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域外での販売も視野に入れた商品販売機会の提供 ○商品PR、販売促進活動機会の提供 ○JA、商工会等との連携 ○事業者が主体となった取り組みの実施 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>10. 高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化</p> <p>《香美市》</p> <p>谷相集落をモデル集落とし、高齢者とともに農業で生活できる地域づくりに取り組み、将来にわたって中山間地域の集落で生活できる「こうち型集落営農」の実現を目指す。</p>	<p>◆集落営農の活動強化 谷相地区集落営農組合の活動支援(総会、役員会、巡回、先進地視察、研修会)</p> <p>◆農作業受委託の推進 受委託体制づくり(カレター部会)、共同利用機械等の整備</p> <p>・中山間地域集落営農支援事業 H21: 3,307千円 H22: 7,895千円</p> <p>・集落営農・拠点ビレッジ 初支援事業 H23: 528千円</p> <p>◆売れる米づくり 谷相米生産指導、ITファーマー推進(講習会、個別巡回、実証ほ)</p> <p>◆園芸品目の導入と普及推進 アジサイ・青ねぎの導入(講習会、個別巡回、実証ほ) 二つの収量向上技術の検討(個別巡回) 直販向け品目の拡大(講習会、巡回、実証ほ、先進地視察)</p> <p>◆交流活動の推進 消費者との交流会開催への支援(検討会)</p> <p>◇その他</p> <p>・こうち型集落営農IT育成事業 H21: 593千円 H22: 582千円</p> <p>・集落営農普及促進事業 H23: 333千円</p>	<p>◆集落営農の活動強化 谷相地区集落営農組合に6部会が設置され、活動が組織的かつ計画的にできるようになった。</p> <p>◆農作業受委託の推進 受託面積が拡大した。 (H20: 0a→H23: 共同防除実面積11ha、収穫1.45ha、乾燥・粃すり8.5ha)</p> <p>◆売れる米づくり 谷相米の基準を作り(H22)、販売することができた(H23)。ITファーマーが7名(H20)から11名(H23)となった。</p> <p>◆園芸品目の導入と普及推進 アジサイが導入され(6戸7a)、初出荷することができた(H23: 2戸)。 青ねぎは1戸2a(H20)から3戸12a(H23)に拡大した。二つは有望品種や電照栽培技術が導入された。 直販部会は生産履歴の記帳や計画的な作付ができるようになった。</p> <p>◆交流活動の推進 消費者との交流会が定着(H21から毎年開催)し、谷相の良さ・米のおいしさをPRすることができた。</p>	<p>こうち型集落営農組織数 (H19 -) 1組織</p>	<p>1組織</p>
<p>11. 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市物部町を中心としたユズは、国内最大の青果出荷(玉出し)ユズの産地であるが、生産者の高齢化などから、生産の維持が困難になっている。</p> <p>このため農作業受委託などの仕組みづくりを通じて、作業者を確保し産地の維持発展を図る。</p> <p>また、従来に関東、関西地区への市場出荷に加えて、関東以北などの新たな市場の開拓を行い、新たな需要の掘り起こしと選果場の機能強化による商品開発を行う。</p> <p>近年、ユズ園での鳥獣害の発生が多くなっており、こうした対策を取り入れた新系統品種の実証ほを設置する。</p>	<p>〈生産対策〉</p> <p>○ユズの雇用労働システム(モデル)づくり ・「ゆずもり」の創設(H22年度)</p> <p>○青果の安定出荷に向けた技術の検討</p> <p>○樹園地の現状把握</p> <p>○所得を補完する品目の検討 〈集出荷及び販売体制の強化〉</p> <p>○出荷場・選果場整備 ・(再掲)H21年度農業生産体制強化緊急整備事業補助金75,810千円 ・(再掲)H22年度こうち農業確立総合支援事業補助金610千円</p> <p>○搾汁施設の機能強化: H23年度こうち農業確立支援事業補助金7,533千円</p> <p>○機械による全量選果の試行</p> <p>○再選果の実施</p> <p>○新たな商品開発</p> <p>○「物部のゆず」の認知度向上</p> <p>・ユズ狩り実施 ・ユズオーナー制の実施</p>	<p>〈生産対策〉</p> <p>○ユズの雇用労働システム(モデル)づくり ・「ゆずもり」の利用件数: H22年度2件</p> <p>○青果の安定出荷に向けた技術の検討</p> <p>○樹園地の現状把握 ・放棄された樹園は確認されていない(H23年7月末で調査終了)</p> <p>○所得を補完する品目の検討 ・にらの試験栽培実施 〈集出荷及び販売体制の強化〉</p> <p>○出荷場・選果場整備 ・H21年度 立体予冷库・全自動選果システム導入 ・H22年度 カラーリング施設</p> <p>○搾汁施設の機能強化: H23年度異物混入防除</p> <p>○機械による全量選果の試行 ・「冬至」から良品を寄りだして「平箱」に次ぐ商品へのランクアップ</p> <p>○再選果による商品ランクの細分化 ・「酢玉」からの再選果により30%が青果販売可能な事例あり</p> <p>○新たな商品開発 ・上記の再選果による「酢玉」の袋詰め</p> <p>○「物部のゆず」の認知度向上 ・ユズ狩り実施: H22年度参加者100名 ・ユズオーナー制の実施: H23年度オーナー14名</p>	<p>ユズ販売額 (H19 5.0億円) 5.1億円</p> <p>新たな商品開発 (H21新規) 2品目</p>	<p>4.3億円 (H23園芸年度販売額)</p> <p>2品目</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・H21年に策定された集落ビジョンをもとに、営農組合が設立され(H21.3)、部会体制も整い、こうち型集落営農組織の活動が計画的にできるようになった。</p> <p>・農作業受委託については、共同利用機械等の整備を段階的に進めながら、集落での支え合いの仕組みができた。</p> <p>・園芸品目・新技術が導入され、今後も集落の所得向上に期待ができる。</p> <p>・交流会の開催により、消費者とだけでなく、集落内の交流が促進され、集落の活性化につながった。</p>	<p>【課題】</p> <p>○組織としての自立</p> <p>【方向性】</p> <p>○計画的な組織活動を自立してできるように、またモデル集落として地域に情報発信できるように、支援を行う。</p>	
<p>・機械による全量選果の試行や「ゆずもり」による作業受託など、高齢化する生産農家の労働負担の軽減対策を実行している。また、機械選果による「冬至」からのランクアップや「酢玉」の再選果は、玉出し可能な商品量を増加させ、全体としてのゆず販売額の底上げにつながっている。また、後継者も2名の就農が見込まれている。さらに、物部のゆずの認知度向上を目的として開始した一連のゆずイベントは、地域の観光施設でも人気の「ゆず絞り体験」として広がりを見せ始めている。</p>	<p>【課題】</p> <p>○生産農家の労働負担の軽減</p> <p>○産地の維持</p> <p>【方向性】</p> <p>○「ゆずもり」の活用</p> <p>○後継者の開拓及び育成</p> <p>・ユズ狩りやオーナー制による産地への親近感の醸成</p> <p>・所得を補完できる品目選定</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>12. 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る</p>	<p>◆香美市地域雇用創造推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21 食品加工・シカ肉講座 ・H22 食品加工・鹿の活用講座 <p>◆香美市地域雇用創造実現事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21 異業種交流会、刃物祭り、ふるさと祭り出店等 ・H22 ネットショッピング開設、各種イベント等での販促活動 <p>◆高知県ふるさと雇用再生特別基金事業（H21～H23）により、鹿肉特産品開発及び販路拡大のため1名を雇用。</p> <p>H21 1,617千円 H22 4,428千円 H23 4,774千円 合計 10,819千円</p> <p>◆高知県ふるさと雇用再生特別基金事業（17,307千円：H23）により、地域アンテナショップ（2店）運営のため6名を雇用。</p>	<p>◆商品化製品数 10品目 うち鹿肉製品 9品目</p> <p>◆地域アンテナショップのオープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H23 ふらっと中町、龍河荘ぐる里 	<p>開発加工製品サンプル数 (H21新規) 10品目</p> <p>商品化製品数 (H21新規) 10品目</p>	<p>11品目</p> <p>10品目</p>
<p>13. 民有林における間伐の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>効率的な施業の実現を図るとともに、林業事業体の経営基盤の整備や担い手の育成を図り、素材の増産等に取り組み。</p>	<p>〈森の工場づくり〉</p> <p>○事業の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元説明会の開催32回（H23年度未現在） <p>○作業道の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度 45,574m ・H22年度 48,403m ・H23年度 14,005m <p>○国の補助金の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造林補助金：H21年度 103,822千円、H22年度 139,613千円、H23年度 104,305千円 ・森林林業再生プラン事業：香美、物部森林組合（H22年度） 267,675千円 	<p>〈森の工場づくり〉</p> <p>○「森の工場」の承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度初め：4,345ha→H23年度末：11,766ha <p>○間伐面積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度：1,054ha（うち搬出間伐192ha）→H22年度：916ha（うち搬出間伐 255ha）→H23年度：943ha（うち搬出間伐 167ha） 	<p>整備済「森の工場」面積 (H19 3,561ha) 8,400ha</p>	<p>11,766ha</p>
<p>14. 木質バイオマスの活用に向けての取組（需用者開発）</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>「香南香美地域新エネルギービジョン」を踏まえて、上流域の豊富な森林資源と下流域に一大園芸地帯が広がる立地条件を生かした「エネルギーの地産地消」によるCo2排出削減と地域振興を念頭に、各種事業を活用して、木質ボイラーの実需者開発を行う。</p> <p>また、地域の林地残材等を活用した木質燃料の供給基地づくりに向けた検討を行う。</p>	<p>〈木質バイオマスボイラー導入〉</p> <p>○実需者開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グリーンニューディール事業」、「地域活性化・生活対策臨時交付金」を活用 ・グリーンニューディール事業補助金 <p>H21：3,570千円 H22：123,066千円 H23：27,132千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度地域活性化・生活対策臨時交付金 24,909千円 <p>○供給基地づくりの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H22年度「緑の分権改革」推進事業 30,094千円（委託額） 	<p>〈木質バイオマスボイラー導入〉</p> <p>○実需者開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グリーンニューディール事業」、「地域活性化・生活対策臨時交付金」を活用 ・グリーンニューディール事業：農業用ボイラー18台導入 ・地域活性化・生活対策臨時交付金：温泉用1台導入 <p>○供給基地づくりの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林地残材等を活用した木質ペレット生産についてシミュレーションを実施 	<p>ペレット利用量 (H21 -) 1230t/年</p>	<p>517t/年</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・香美市地域雇用創造協議会が中心となり、食品加工及び鹿肉に関する講座や各種イベント等での販促活動を通じて、鹿肉に関しては数多くの商品が開発された。その中でも、土佐鹿ソーセージを使用したシカドッグは、H23年5月開催の土佐の食1グランプリin長宗我部フェスで見事優勝し、これを機に鹿肉の加工品が注目を集め、販路も徐々に拡大するなど、需要が増加してきている。</p>	<p>【課題】 ○鹿肉加工品の需要増に対する鹿肉の安定供給体制の確立 ○鹿肉加工品の品質の維持と、製造者の育成 ○地域雇用創造事業終了後の商品開発支援の体制</p> <p>【方向性】 ○鹿肉の安定供給に向けた、他地域との協力体制の確立 ○鹿肉加工品の品質維持に向け、製造者の人材育成も含めたシステムづくり ○香美市でH24年度以降の体制を検討</p>	
<p>・H23年度において目標面積を達成している。造林補助金や森林林業再生プラン事業を有効に活用し、作業道開設や高性能林業機械を利用した搬出間伐等に取り組んでおり、さらに、24年度においても地元説明会を開催し、事業の周知に努め、「森の工場」の拡大を推進している。</p>	<p>【課題】 ○地権者の確定 ○地権者の県内外等への転出や高齢化による境界確定の不成立 ○切り捨て間伐への対応</p> <p>【方向性】 ○地権者に対する「森の工場」事業の周知 ○搬出間伐の推進</p>	
<p>・目標値は達成できる見込みである。国の制度を活用して、実需者の負担を軽減する形でボイラーの導入が実現した。今後は、木質バイオマス燃料の供給体制づくりを推進していくことで実需者の負担が軽減され、実需者の増加につながっていくものと考えられる。</p>	<p>【課題】 ○実需者の負担軽減 ○木質バイオマス燃料の安定供給</p> <p>【方向性】 ○木質バイオマス燃料の生産・供給体制整備 ・事業主体の設立 ・コスト削減を可能にする集材・生産・流通等の仕組みづくり ○安定した供給価格の実現 ○木質バイオマス燃料に使用によりCO2削減を実現した農産物の高付加価値化</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>15. シイラの加工商材活用</p> <p>《香南市》</p> <p>シイラの加工による浜値の向上と付加価値の増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る</p>	<p>〈1次加工の実施〉</p> <p>○加工場整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同作業場の改修：H21年度産業振興推進総合補助金（特別承認）総事業費15,015千円 ・加工場の衛生管理向上のための改修：H23年度水産業基盤整備事業補助金 総事業費10,080千円 <p>○衛生管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理研修開催（3回）、中央東福祉保健所との協議（5回） <p>○加工原魚の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協が入札に参加（販路の開拓） ・H21年度1社→H22年度5社→H23年度5社 	<p>〈1次加工の実施〉</p> <p>○加工量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度：50t→H22年度：29t→H23年度：51t <p>○販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度：3,512千円→H22年度：2,571千円→H23年度：5,973千円 <p>○雇用の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度：8名→H22年度：8名→H23年度：8名 <p>○浜値の下支え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協が30円/kgで入札 	<p>加工原料として漁協のシイラ販売額 (H19 -) 1,500万円</p>	<p>597.3万円</p>
<p>16. 「ごめん」をブランド化</p> <p>～トライアングルゾーンの活性化～</p> <p>《南国市》</p> <p>「ごめん」というユニークな地名を活かし、人を呼び込み、商店街を活性化させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごめん軽トラ市（年3回開催）への補助（H21～・補助金60万円/年） ・緊急雇用特別事業によるエリアマネージャーの設置（H23） ・ごめんシャモ研究会のごめん商店街への事務所開設（H23） ・高知農業高校アンテナショップ開店（H22～） ・ごめん応援隊（チームゴメンジャー）の結成（H23） ・ごめんまちづくりプロジェクト委員会発足（H23） 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽トラ市回数・出店数・来場者（延べ） H21：3回・93台・5300人 H22：3回・79台・6000人 H23：3回・64台・6000人 	<p>軽トラ市の定期的な開催 3回/年</p> <p>ごめん応援団の設立 1組織</p>	<p>3回/年</p> <p>1組織</p>
<p>17. 香南市コミュニティガイド事業</p> <p>《香南市》</p> <p>自衛隊移転に伴う新たな住民の一大流入を契機に、商店・飲食店・サービス店等において、地域に滞在するうえで欠かせない生活情報を提供することにより、大型量販店等との差別化を図り、活力のある商店街づくりを目指す。</p>	<p>〈消費者への告知ツールの開発〉</p> <p>○「香南市のおいしい たのしい うれしい お店紹介BOOK」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度発行：25,000部 ・H23年度改定版：20,000部 ・主な配布先：香南市全戸（約13,000戸）、自衛隊関係者（約700戸）、転入者（毎年約200戸） <p>〈コミュニティイベントの開催〉</p> <p>○香南百貨店おひろめ市の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「香南おひろめ市in三宝山」開催（H22.10/23） ・「第2回おひろめ市in天然色」開催（H23.11/12） 	<p>〈消費者への告知ツールの開発〉</p> <p>○「香南市のおいしい たのしい うれしい」お店紹介BOOKの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店紹介BOOKをきっかけとした来店客が現れ始めている ・お店紹介BOOKへの新規掲載の事業者が増加 <p>〈コミュニティイベントの開催〉</p> <p>○香南百貨店おひろめ市の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H22来場者：約2,000人 ・H22参加企業数：83店 ・H23来場者：約1,200人 ・H23参加企業数：54店 	<p>◆香南市商工会加盟店の増加 (H20：596店) 650店</p>	<p>609店</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・加工場の整備を行い、小型シイラ（2kg以下）の加工に取り組んでいる。加工量は漁獲量に連動するため、目標額の達成は困難であるが、加工原魚の確保のため漁協が30円/kgで入札に参加したことが浜値の下支えとなっており、加工のための雇用も創出されている。23年度には衛生管理の向上による販路拡大を図るために加工場の改修を行うとともに、保健所と連携して衛生管理研修等を実施している。取引先の開拓も積極的に行っており、県内外の水産加工業者や学校給食への納品を目指している。さらに加工場の周年稼働に向けてシイラ以外の魚種の加工も検討している。</p>	<p>【課題】 ○原魚の安定確保 ○衛生管理の向上 ○新商品の開発 ○新規販売先の確保</p> <p>【方向性】 ○スケールメリットを活かした原魚確保体制の検討 ○周年稼働に向けた加工体制整備 ○県内企業等との連携による加工事業のノウハウの蓄積 ○サンプル出荷の実施 ○見本市・商談会等への出展</p>	
<p>・軽トラ市の定期的開催（3回/年）は定着している。 ・軽トラ市開催時にゴメンジャーショーも行われ集客効果は上がってきている。ゴメンジャーは市の商工担当課において取り組んできたが、ゴメンジャーを通じてごめん町商店街の活性化に関わってもらおうとメンバーを公募。H23年5月に11名からなるごめん応援隊（チームゴメンジャー）を結成して、活動中。 ・H22年6月から高知農業高校アンテナショップが月2回開店。 ・軽トラ市やアンテナショップ開店日等のイベント時は賑わいが創出され、一定の成果があったと考えられるが、日常的な賑わい創出には至っていない。 ・イベント時だけで終わらない日常的な賑わい創出のためには、外部からの力に頼ったイベントだけでなく、ごめん町商店街で積極的かつ主体的に賑わい創出に取り組んでいくことが必要である。</p>	<p>【課題】 ○ごめん町商店街の活性化</p> <p>【方向性】 ○今後も軽トラ市などの地道にイベントを継続していきながら意識醸成に努め、商店主ら地元の気運の高まりを待つ。</p>	
<p>・目標値は達成できていないが、「お店紹介BOOK」が新規顧客につながり始めており、商工会には店舗からの掲載希望が寄せられている。また、三宝山、天然色劇場で開催した「香南百貨店おひろめ市」は好評を博し、店舗PRとリピーターづくりを効果的に行うことができた。さらに、「香南百貨店おひろめ市」は「移動する商店街」でもあることから、場所を決めて定期的を開催することなどにより、買い物弱者対策ともなりうる取り組みと考えられる。今後は、各店舗の商品配達の可否や前述のようなおひろめ市の開催場所等の情報も掲載することで「お店紹介BOOK」の充実が図られるとともに、従来の「来店を待つ商店街」ではなく、「顧客近くに移動する商店街」として、大型量販店等との差別化による活性化が期待できるものである。</p>	<p>【課題】 ○来店客の増加</p> <p>【方向性】 ○冊子やHP等による生活情報の紹介 ○買い物弱者対策 ・「香南百貨店おひろめ市」の定期的開催 ○新たな取り組みの検討、実施</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>18. 地場産業（土佐打刃物、フラフ）の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p>	<p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市地域雇用創造実現事業による県内外のイベント等での販促活動 ・ふるさと雇用再生特別基金事業（17,307千円：H23）により、地域アンテナショップをオープン <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知工科大学生の商品開発サークルによる新商品の開発 <p>◆体験メニューの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐打刃物の鍛造体験を素材に「新たな体験メニュー作り込み研修」を実施（H23/6/16、龍河荘ぐる里、参加者24名、うち体験者7名） <p>◆後継者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐打刃物後継者育成対応策検討会による後継者育成対応策の検討 	<p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらナイフ（H21）96本納品（てんこす、銀座めざマルシェ）（H22）140本販売 等 ・地域アンテナショップの開設 ふるっと中町（H23/6/1） 龍河荘ぐる里（H23/4/28） <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発サークルで試作品をブラッシュアップ中（H23） <p>◆体験メニューの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐打刃物の鍛造体験が体験観光の商品として完成（H24年度からは、窓口/龍河洞保存会、実施/香美市観光協会で運営予定） 	<p>土佐打刃物製造業後継者育成にかかる事業計画 1件</p>	<p>1件</p>
<p>19. 観光交流のネットワークづくり（観光推進体制の確立強化）</p> <p>《南国市》</p> <p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、外に売り出していくための体制整備を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用再生特別事業（H21～H23）を活用した企画コーディネーターによる食1グランプリ等の企画・運営 H21: 7,608千円 H22:10,677千円 H23:10,933千円 計29,218千円 ・長宗我部フェス開催（市単1,000千円：H22～） ・GWにおけるウェルカムサービスの実施（道の駅、龍馬空港） ・観光基本計画(案)の作成と意見募集（H22～23） ・ふるさと雇用再生特別事業（H22～H23）による観光推進員設置 H22: 854千円 H23: 5,254千円 計6,108千円 ・緊急雇用特別基金事業によるホテルフロントへの観光コンシェルジュ設置 H22: 580千円 H23:3,101千円 計3,681千円 	<p>企画コーディネーターによるイベントの企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H22: 岡豊山さくらまつり内土佐の食1グランプリ来場者: 6,500人 ・H23: 長宗我部フェスと同時開催 土佐の食1グランプリ来場者: 6,000人 <ul style="list-style-type: none"> ・観光基本計画の策定（H23） ・観光パンフレット及び大酔いマップに掲載した事業所数 58団体 	<p>観光ネットワークへの参加団体数（H21新規） 50団体</p> <p>観光基本計画の作成 1</p> <p>観光コーディネート組織の確立 1組織</p>	<p>58団体</p> <p>観光基本計画 1</p> <p>1組織</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・土佐打刃物もフラフも伝統産業であり、生活様式等の変化を受けて需要減少傾向の中ではあるが、香美市地域雇用創造協議会の実現チームが中心となり、販売促進や商品開発に関する取り組みを行ってきた。</p> <p>・地域アンテナショップを2店舗開設し、地場産業の紹介や体験メニューの販売等を行った。</p> <p>・「土佐打刃物、フラフ製造は、本市を代表する伝統産業として、後継者育成による経営力の強化等について、商工会等と連携を図りながら支援体制を充実」することを「基本的方向」とする、第1次香美市振興計画後期基本計画（H24-28）が平成24年3月に策定された。</p> <p>・土佐打刃物製造業の後継者育成については、土佐打刃物後継者育成対応策検討会を発足して、対応策の検討を行っている。</p>	<p>【課題】</p> <p>○地場産業の維持、後継者育成</p> <p>【方向性】</p> <p>○販促活動の支援及び後継者育成対応策の検討</p>	
<p>・数値目標は見込みも含めて達成。</p> <p>・観光コーディネーター組織の確立については、南国市観光協会の事務局を整備【人員を3名配置】し、行政から独立して活動していく体制を整えた。</p>	<p>【課題】</p> <p>○南国市観光協会の法人化</p> <p>○観光ネットワークの強化</p> <p>【方向性】</p> <p>○財源面も考え合わせながら、コーディネーター組織【観光協会】の実質的独立化を行う。</p> <p>○観光ネットワークへの参加団体との連携をより強化して行く。</p> <p>○歴史的資源・食・農業等の体験を組み合わせた「観光」の商品づくりを行い、PRしていく。</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>20. 歴史的資源を活用した地域活性化への取組 ～土佐のまほろば～</p> <p>《南国市》</p> <p>地域が誇る歴史的な資源を活用し、「語り部」の育成などに取り組み、関係者が一つになって交流人口の拡大による地域活性化につなげていくために取り組んでいく。</p>	<p>・雇用創造推進事業を活用した観光ボランティア養成講座の実施</p> <p>・ふるさと雇用再生特別事業(H21～H23)を活用した企画コーディネーターによる食1グランプリ等の企画・運営</p> <p>H21: 7,608千円 H22:10,677千円 H23:10,933千円 計29,218千円</p> <p>・長宗我部フェス開催・長宗我部元親ラリー及びイベント支援補助金(H22～・市単:1,000千円)</p> <p>・GWにおけるウェルカムサービスの実施(道の駅、龍馬空港)</p> <p>・観光基本計画(案)の作成と意見募集(H22～23)</p> <p>・ふるさと雇用再生特別事業(H22～H23)による観光推進員設置(観光ボランティアガイド組織「南国市観光案内人の会」の推進事務局員)</p> <p>H22: 854千円 H23: 5,254千円 計6,108千円</p>	<p>・観光ボランティアガイド組織「南国市観光案内人の会」の設立</p> <p>実績(H23)</p> <p>・さくらまつりウォーキング参加者:50人</p> <p>・観光ボランティアガイド付ウォーキング参加者:124人</p>	<p>観光ボランティアガイド組織の設立 1組織</p>	<p>1組織</p>
<p>21. 体験観光型メニューの滞在型旅行商品化アクションプラン</p> <p>《香南市》</p> <p>市内各地でいくつかの体験メニューの開発・実施が進みつつあるが、実施主体ごとに個別にPR等を行っている段階であるため、一元的に情報管理、発信を行うなど、観光商品化に向けて機能強化を図る。</p>	<p>〈観光ガイド等養成〉</p> <p>○観光ガイド等養成講座の開催</p> <p>・68講座延べ632名受講(H21・H22年度実績)</p> <p>〈旅行商品の企画・販売〉</p> <p>○モニターツアー実施</p> <p>・11回実施、参加者数173名</p> <p>○プロモーション</p> <p>・4回17社</p> <p>〈情報発信機能の強化〉</p> <p>○香南市観光協会の法人化</p> <p>・一般社団法人化(H22年12月)</p> <p>○体験観光用パンフレットの作成</p> <p>・個人用、団体用各15千部</p> <p>◆高知県ふるさと雇用再生特別基金事業による「地域まるごと旅行商品の開発販売及びハンドオペレーター機能構築事業」の実施(2名雇用)</p> <p>H22年度: 9,036千円 H23年度: 10,595千円 合計: 19,632千円</p>	<p>〈観光ガイド等養成〉</p> <p>○香南市案内人会</p> <p>・香南市案内人会発足(H23年1月)</p> <p>・香南市観光協会主催ツアーでガイド活動を開始:3回</p> <p>〈旅行商品の企画・販売〉</p> <p>○香南市観光協会によるウォーキングツアーの開催</p> <p>・6回実施、ツアー参加者131名</p> <p>〈情報発信機能等の強化〉</p> <p>○香南市観光協会の旅行業(第3種)登録</p> <p>・香南市観光協会による旅行商品の販売</p>	<p>商品作成数(日帰り、1泊2日、2泊3日×3ターゲット) 10タイプ以上</p> <p>年間プロモーション活動 県外(主に東京・大阪) 年間6回以上</p>	<p>10タイプ</p> <p>3回 計12社</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・ボランティアガイド組織「南国市観光案内人の会」が設立され、地元にお金が落ちる仕組みとしての第一歩を踏み出すことができた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイドの質的向上 ○観光協会。観光ネットワークとの連携強化 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史民俗資料館との連携による研修の実施 ○H24年度からの新体制づくりの検討に「案内人の会」も織り込んで考えていく。 	
<p>・年間プロモーション計画は目標値を達成できていないが、観光ガイド等養成講座の受講生が「香南市案内人会」を発足させ、香南市観光協会が主催するツアーでガイド活動を開始した。また、香南市観光協会が一般社団法人化し、旅行業第3種の登録も行った。これにより、旅行商品の企画から販売、受け入れ（ガイド）までの体制が整った。今後は、インストラクターの養成もことで行いつつ、体験メニュー等の開発やそれらを商品として企画し、PR・販売していくことで入込客の増加が見込まれる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○旅行商品の企画・販売の継続 ○体験メニュー等商品素材の開発 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インストラクターの養成 ○情報発信 ・エージェントに対するプロモーション 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>22. 観光交流の受け皿づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>観光情報の一元化と観光ネットワークの強化を通じて、香美市を滞在型・体験型観光のフィールドとし、地域の所得の向上と雇用の創出を図る。</p>	<p>◆雇用創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用及びふるさと雇用再生特別基金事業により交流施設の運営スタッフを雇用 H21 2名 H22 3名 H23 7名 <p>◆香美市地域雇用創造実現事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ及び観光関係タリフ集等の制作 <p>◆香美市地域雇用創造推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光インストラクター養成講座 H21 5回 のべ59人参加 H22 6回 同221人参加 H23 9回 同266人参加 <p>◆龍河洞開洞80周年記念事業の検討及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム (H23/6/11) ・アドベンチャーウォーキング (H23/6/12) ・龍河洞まつり (H23/8/27) ・クリスマスキャンドルナイト (H23/12/24) 	<p>◆観光案内所の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 香美市いんぷおめーしょん (H22/4/1) <p>◆地域アンテナショップの開設</p> <ul style="list-style-type: none"> 龍河荘ぐる里 (H23/4/28) →体験観光メニューの制作及び販売 <p>◆広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ及びスタッフブログの開設 ・観光関係タリフ集の完成 <p>◆地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域観光振興協議会が発足 →龍河洞まつりに物部川プロックの3市から特産品等が出店されるなど、広域での取り組みができた <p>◆龍河洞開洞80周年記念事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム (参加者約90人) ・アドベンチャーウォーキング (同7人) ・龍河洞まつり (暗やみ体験参加者352人) ・クリスマスキャンドルナイト (入洞者約1,600人) 	<p>観光コーディネーター等を行う組織</p> <p>1組織</p>	<p>1組織</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>・観光コーディネート等を行う組織として、一般社団法人香美市観光協会が平成24年2月1日に発足した。</p> <p>・香美市いんふぉめーしょんや地域アンテナショップ等の開設により、雇用の創出及び観光情報の提供の場としてネットワーク強化につながった。</p> <p>・香美市地域雇用創造推進事業として実施した研修によって、多くの方々が地域の観光資源について深い知識を得ることができた。</p> <p>・物部川地域観光振興協議会の発足により、観光を1市で考えるのではなく、流域全体で協力して盛り上げていく基盤ができた。</p>	<p>【課題】</p> <p>○（第1期の目標達成を受けて第2期アクションプランに後継として掲げた「森の駅」を中心とした体験型観光の推進」にかかる課題としては）体験メニューの作成</p> <p>【方向性】</p> <p>○インストラクターやガイド等の養成及び組織化</p>	